

4月19日(土)に令和7年度の自治協会総会が開催され、役員や事業計画、予算などが承認されました。

代議員(自治会長)からは、自治会の負担軽減の要望や、自治会未加入者への負担金対応の質問などが寄せられました。

また、各団体より説明やお願いがあり、県からは児童相談所の移転について詳細の説明がありました。今年度から工事が始まり、令和9年の4月に供用開始の予定です。



自治協会総会 (4月19日)

自治会の加入促進

出西地区は新川中央線沿いなどで宅地開発が盛んに行われており、人口は5,200人を超えました。今後ますます人口が増加すると予想されます。

令和7年度 出西地区自治協会の主な事業

7~11月 自治会未加入世帯へ自治会加入勧誘活動
7月頃 自治会加入促進横断幕の設置
9月20日 敬老の日奉飯配布等(地区社協との共催)
10月4日、5日 出西地区文化祭(運営協力)
高齢者集いの会(敬老会)

10月4日、5日 第8回出西軽トラ市
1月 出西地区新年賀会
1月19日 出西地区自治会長会
2~3月 香典返し寄付金配分申込受付・決定



出西軽トラ市'24 (令和6年10月)



出西地区敬老会 (令和6年10月)

間もなく梅雨期に入ります。

防災対策万全に!

地域で、家族で話し合いを!

間もなく梅雨期に入ります。皆さんのお手元にあるハザードマップを参考に地域で、家庭で災害への備えについて確認し合い、万が一の場合に備えましょう。

自治会単位で防災研修(避難訓練等)を企画される場合には、地区災害対策委員会(事務局:出西コミュニティセンター 72-9204)へお気軽にご相談ください。

避難所としてのコミュニティセンターの活用
各自治会では一時避難所を決めていただき、地域単位での避難行動を確認していただいておりますが、土砂災害等の恐れがある場合には、早い段階でコミュニティセンターが、高齢者等避難所あるいは市指定避難所として開設されます。

避難行動要支援者の個別避難計画を策定
高齢や障がいなどによって災害時に1人で避難することが難しい方の具体的な避難方法を個別に策定し、万が一の場合に備えます。

自治会単位で、民生委員、防災委員、自治会長と相談し作業を行いますので、情報提供、計画策定にご協力をお願いいたします。

避難行動要支援者への支援

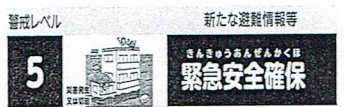
避難行動要支援者は、高齢や障がいなどによって、災害発生時にひとりで避難することが難しい人のことです。地域で協力して、近所の高齢者、障がいのあるかたの安全確認、避難所への移動を支援しましょう。



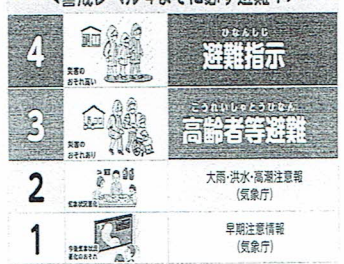
要支援者
利用している人
要支援者とは、災害発生時にひとりで避難することが難しい人です。地域で協力して、近所の高齢者、障がいのあるかたの安全確認、避難所への移動を支援しましょう。



避難指示を必ず避難



警戒レベル4までに必ず避難!



警戒レベル5は、すでに安全な状況です。命が危険な状況です。警戒レベル5緊急安全確保の発令を待たずに避難してください。

避難行動は中止されます。これは、警戒レベル4避難指示で危険な場所から全員避難しましょう。

避難に時間のかかる高齢者や障がいのある人は、警戒レベル3高齢者等避難で危険な場所から避難しましょう。

出西地区の災害対応を担当する 地区担当職員です



新藤 真也さん



永戸 志歩さん

不慣れな点はあるかと思いますが、皆さんの安全に繋がる活動をおこなっていきますので、よろしくお願いします。

・昨年に引き続き担当されます。



出西の美田を守り続けたい

農事組合法人行きサンプラワー(管内農産組合)の大型農機での田植え風景(5月5日)。

5月の出西は、田畑のトラクター、田植機の手で一気に活気づきます。冬の長い時を超えて、本格的に人々が動き出したことを象徴しています。農事組合法人「千家サンプラワー」は、平成14年3月に県営ほ場整備事業による農地30haの区画整理工事が完了し、水田の大型機械化と農道を整備されました。

営農環境が整った機会に自治会内の農家7戸による千家3営農組合を立ち上げ、共同作業により個々の負担軽減とコスト削減を目指し、平成18年に、さらなる経営の安定、継続を図るため法人化されました。

環境への負担軽減の取り組みとして化学肥料・科学合成農薬を低減した農業を行い、美田を守り続ける営農組織として、今年もおいしいお米を皆さんに届けられることでしょう。

今号の掲載内容

- 出西の美田を守り続けたい……………1
- 出西コミュニティセンター運営方針……………2
- 出西地区自治協会運営方針……………3
- 防災対策万全に!……………4
- 出西トビックス……………5
- リレーエッセイ……………6
- 出西が輝出した偉人たち②特別編……………7
- 活動グループ・登録団体紹介……………8
- 4コママンガほか……………8

令和7年度の運営方針

出西地区は世帯数が増え、1,900世帯を超えてきました。人口も5,200人を超えて、新しい住民の方も増えています。

こうした状況の中、新旧の住民の皆様と一緒に学び、築きめるような事業を展開していきたいと思ひます。

多くの方の参加をお待ちしております。

『出西ふるさと読本』を生かす

近年発行した『出西ふるさと読本』を、歴史講座や世代間交流に活用し、出西をより深く知っていただけるよう、ふるさと教育を展開していきます。

各世代の交流機会の拡大

地域の活気は、人々の交流とつながりにより生まれるものであり、子育て世代の交流や高齢者の地域交流、スポーツなどによる交流など、世代間、Uターン者や外国籍の方等との交流を促し、お互いに支え合い助け合う、健康で笑顔のあふれる出西地区を目指します。

コミセン機能の利用促進

広域合併で行政が少し遠くなった中で、コミセンは、行政と住民をつなげる総合的なハードとしての活用が求められています。

コミセンからもさまざまな交流機会拡大に向けたメッセージを発信していますが、住民の皆さんからもコミセンを舞台に多様な情報発信、パフォーマンスを実践されますよう期待しています。

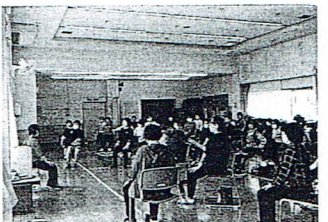
また、引き続き、「出西コミュニティセンターだより」を発行し、地域情報を皆様にお届けします。

人権問題への取り組み

多文化共生など、今日的な人権問題などに対応し、一人ひとりの人権が尊重される、心豊かな地域となるよう研修会や勉強会を開催します。

運営委員の交代

長年、専門部長等として事業展開をリードいただいた白根雄雄さん(下出西3)、団体代表として参加いただいていた高橋均さん(千家4)が勇退され、新専門部長として高橋真一さん(下出西5)、団体から多々納優さん(下出西1)、山根陽一さん(神立1)が選出されました。勇退される方々に改めて感謝申しあげ、新任の方々の活躍をお祈りします。



今年度最初の自主企画事業はつらつ体験教室(4月21日)

令和7年度 出西コミュニティセンターの主な事業

5月25日	親子で春の自然体験	6月17日	ライフデザイン講座	7月25日	親子で夏の自然体験
7月23日~25日	夏休み学習広場&夏の子ども体験教室	10月	花苗販売・寄せ植え体験	10月	夏休み学習広場&夏の子ども体験教室
10月	秋の自然体験教室	11月	大人の社会見学	10月	秋の自然体験教室
12月25日、27日	クリスマス会	11月	花いっぱい運動	12月	クリスマス会
1月10日	七草がゆを食べよう	12月	ふれあいサロン	1月10日	七草がゆを食べよう
1月14日	出西子育てサロン	12月	ふれあいサロン	1月14日	出西子育てサロン
7月5日	七夕コンフォート	6月22日	自治会対抗ソフトボール大会	7月5日	七夕コンフォート
10月4日、5日	文化祭	7月13日	健康まつり	10月4日、5日	文化祭
11月14日	文化探訪	7月、8月	夏休み一斉ラジオ体操	11月14日	文化探訪
		9月	ふれあいソフトボール大会		
		10月	ふれあいソフトボール大会(文化祭)		
		11月2日	健康のチカラ		
		11月18日	ユーススポーツにチャレンジ!		
		12月	はつらつ体験教室		



専立寺は心ふるさと

紫雲山・専立寺は門信徒を超えた中出西の人々の心ふるさとであった。子どもにとっては遊び・学び・憩いの場であった。50年程の参道の奥に本堂があり周りは樹齢数百年の黒松・椎の古木に囲まれていた。庭は広く元気がよく走りまわった。東側に梨の太木や旗竿があり絶好の遊びの標識になった。西側には笹藪があり、かくれんぼの場として最適であった。陣取り、手つなぎ、縄跳び、竹馬など何でもできる広場で、参道も道幅が広く、競争をするのもってこいの場所であった。学校が終わると誰となく集まり日が暮れるまで遊んだ。

優しく見守るご院家さん

お寺は遊びの場だけではなく。農繁期には託児所となり、平常時には日曜学校が開かれた。



藤川 得心住職

先代20世「ごえんげさん」(ご院家) 藤川得心住職(1909~1964)の紙芝居やお話を夢中になって聞いた。間寛大の紙芝居や芥川龍之介の「蜘蛛の糸」のお話は、子ども心に強く響き大人になっても思い出す。

ご院家さんは小柄でくるくるとした目元で、ふくらとしたお顔だった。本堂に上ったり、庭を縦横無限に走ったりしても嫌な顔もせず優しく見守ってくれた。普段は国民服を着ておられたが、お話の時には黒の法衣を着ておられた。

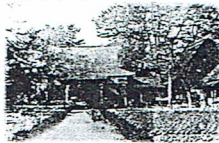
仏教のことは勿論、旧制大社中学、京都中央仏教大学を卒業された博学の方で、村人は分るぬことがあると聞きに行った。また、文学好きで児童劇「鬼の餅つかけ」を創作、脚本。それを地元の児童が演じ、開局間もない松江放送局から放送された。「落し穴に落ちた三匹の子ウサギと母ウサギが、月のお姫

様に助けてもらったお礼に、十五夜の晩に月を訪れて、お餅をついて差しあげる」というメルヘンチックな物語であった。昭和7、8年頃のことである。

放送当日、中出西には大かじやさん(故人・青木幸一郎さん宅)にしかラジオがなかったのが、皆が聞きに行ったが、電波事情が悪くジージーとまるで弾の音を聴くようであったという。

庫裡の本棚には、たくさんのお本があり、読書機、パイオリン、オルガン(先年奉仕作業に行ったおり、当時の椅子があり懐かしかった)などがあがり、文化の香りがするところであった。お寺は昔からその地域の文化の中心であったのだ。

太平洋戦争末期には、学校が海軍大社航空基地の兵舎になり、専立寺が仮校舎になった時もあった。



昭和2年の専立寺

広く開放された寺院

大人になっても専立寺は地域の中心であった。以前は学校を卒業するとほとんどの人が村の青年団に入った。青年団の拠点も専立寺であった。演劇や踊りなどいろいろな催しがあり娯楽に乏しいおり、劇の滝口入道、踊りは野崎小唄、やぐさ踊り、果ては浪曲、清水次郎長など、お寺が劇場のようになった。また、婦人会、消防団などの拠点でもあった。地区には大人数集まる集会所がなく、町会議員の個人演説会が本堂で開かれるなど、宗教活動以外にも広く開放された寺院であった。

平成年代末期までは地区の老人会(中出西百クラブ)が、年に一度清掃奉仕を行っていた。若き日の思い出と感謝の念を込めて行われた。「如来大悲の恩徳は、身を粉にしても奉ずべし」と唱和した、亡きご院家さんを偲ぶ日であったが、平成26年をもってこの奉仕作業は行われなくなり、時代の変遷とはいえ、得心住職に申し訳ない気がする昨今である。

文責:黒田 邦宏(中出西4)
写真提供:藤川 典久様

高齢者憩愛亭おめでとをうさいます!

瑞宝双光章 田坂 将さん(中出西)

3月1日に、叙勲受章者が島根県から発表、このたび出西地区から、田坂将さんが選ばれました。



田坂 将さん

田坂さんは、斐川町立中部小学校の校長など38年間の教員生活を勤めあげられました。

定年後は、出西地区自治協会設立時の会長、災害対策委員会委員長を務められました。

出西地区の福祉活動や地域活動、出西のまちづくりにも多大な功績を挙げられました。

また、出西コミュニティセンター発刊の書籍『出西ふるさと読本』等に多くの写真を提供するなど、地域に貢献されました。

益々のご活躍を祈念いたします。



親睦の斐川川

出西の景観が守られている

若葉の季節になりました。出西の玄関口、神立橋東詰ロータリーの花壇では、色とりどりの花が咲き、人々を迎えています。

皆さんは、ひかわ水士里女性の会をご存知でしょうか。「花のまちひかわ」で植栽を中心とした活動を行っている団体です。昨年10月に、会員の皆さんがビオラの苗を神立橋東詰ロータリーの花壇に植栽されました。同じ時期に原鹿の旧家農家敷前の親水公園にもビオラ苗のプランターを設置し来場者の憩いの場となっています。

また会員一人ひとりが、自宅前の道路に面した場所など、人々の目に触れる所にも花苗のプランターを置き、人の心を和ませてくれています。

神立橋東詰ロータリーの花壇では、今年6月にボーチュラ力の植栽を予定されています。年2回の植栽のほか会員によって交代で除草作業等の管理が行われることで、出西の玄関口の景観が守られています。地域の各所に花の輪が広がっています。



神立橋東詰ロータリーで色とりどりの花が迎えて

出雲児童相談所の移転・新築について

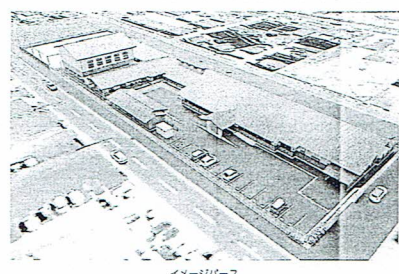
出雲児童相談所(小山町)の出西地区への移転・新築について、4月19日(土)に出西地区自治協会総会において、昨年同様、県健康福祉部青少年家庭課から概要説明がありました。今回は3回目です。

移転予定地は、神永の県所有の元交通機動隊駐川訓練場、約6、600平方メートルです。

令和5年度に、基本設計、地質調査、令和6年度に実施設計、工損事前調査を行い、令和7年3月に神守地区の地元説明が行われたところです。

令和7年度は、4月から7月に工損事前調査、7月から8月に工事前説明会、8月から令和9年1月まで建設工事に着手されます。

令和9年4月に供用開始、6月から令和10年1月に工損事後調査(工事の影響調査)が行われる予定になっています。



イメージパース

活動グループ紹介コーナー

出西地区では「健康・スポーツ」「文化芸術」をはじめとして子どもから高齢者まで趣味や生きがい、健康づくりのためにグループや各種団体により多様な活動が行われています。

〇承認を受けるための4つの要件〇

- 地域と密接に連携
- 地域活動に協力
- 定期的な活動
- 地域住民に広くメンバーを募集

今回は、令和6年1月に新しく団体登録された「食を考える会」(代表:後藤順子さん)を紹介します。

食を考える会は、平日の午後を中心に、月1回程度コミセンの実習室で発酵食品作りを中心に活動されています。これまで、玄米から作るヨーグルト、ピーマン麹、生味噌などに挑戦。講師を招いてのキムチ作りの際は、会員以外の方も参加でき、発酵食品の知識を広げることにも努めています。

発酵食品の知識と技術を学び、健康で豊かな暮らしを目的に、毎回楽しく活動されています。

今回は、旬のタネコを使ったメンマ作りをされた時のレシピを合わせて紹介します。

「タネコのやみつきメンマ」

ラーメンに最もよく、ビールのおつまみにもおなじみです!

材料

タネコ(水素) 300g、みりん 大さじ1/2、ゴマ油 大さじ1、ラー油 少々

[A]中華スープ 200cc、しょうゆ 大さじ1.5、酒 大さじ1、砂糖 大さじ1/2

作り方

① タネコの塊は、くし形切り、下の方は5ミリ程度の輪切りにしてから1センチに細長く切る。

② 鍋にゴマ油を入れ中火でタネコを1分程炒める。

③ 次に[A]を入れて煮る。汁気が無くなる寸前にみりんを入れ、汁気が完全になくなったら火を止める。

④ 最後にラー油を入れてかき混ぜたら完成。冷めてからどうぞ!!

今後も、新しく登録された団体を中心に紹介していきます。

出西地区活動グループ団体紹介パンフレットを3月にリニューアルしました

ばばあちゃん日記



ペンネーム: 見野村(中出)

告知板

ライフデザイン講座

「暮らしとお金について考える」

6月17日(火) 10:00~11:30

会場: 出西コミュニティセンター集会所

第32回自治会対抗ゲートボール大会

6月22日(日) 8:15集合

会場: 出西ふれあい広場

セタコンサート 2025

7月5日(土) 13:00開場 13:30開演

会場: 出西コミュニティセンター集会所

〜チェロとファゴットによるデュオ 同じ音の糸と息〜

※今月配布のチラシをご覧ください。

今年の出西地区文化祭の開催日が、10月4日・5日に決定しました!!

地域の皆さまからの、さまざまな作品をお待ちしております。

寄付情報

〇香典返し 金一封(原出題)
※香典返し金額は、7月12日現在

金一 一紙様(求院1)

(故人) 飛村 政夫様(下出西1)

後藤 孝司様(中出西1)

青木 康一様(下出西6)

ありがとうございます。

斐川ライオンズクラブ 様

(食生活改善推進会、7月12日現在)

岡田 節雄様(神前町支部・グラウンド整備)

永原 仁志様(神前町支部・グラウンド整備)

中島 道雄様(神前町支部・グラウンド整備)

ありがとうございます。

編集後記

〇48号まで、4コママンガは出西保育園さんにお世話になっていました。ありがとうございました。ありがとうございました。

〇「新・出西の歴史探訪」は、都合により休載します。

〇今後とも、読面を充実させるため「出西トピックス」などへの情報をお寄せください。お待ちしております。

(スタッフ一同)

家業のデラウェア栽培に励む

「加温のデラウェアは、6月に入れば出荷できますね。下旬には無加温分も大丈夫です」。4月下旬に行われたブドウ園巡回講習会のこと。県の農業普及員さんの言葉にホッとしています。今年は3月が天候不順で、作柄を心配していました。粒まぶき、水やりなどこれからの管理についても丁寧に指導していただきました。

デラウェアは、出西を特徴づける特産品の一つです。昭和30年代から新川跡地で栽培が本格化し、我が家も小規模ですが、義父が近隣の農家とビニール張りなど協力し合いながら栽培を続けてきました。

私は、次女の出産後、病院勤務の合間で作業を手伝うようになりました。「ブドウ娘」として京阪神市場向けキャンペーンに参加したこともあり、義父亡き後の平成21年からは栽培そのものを引き継ぎました。高齢化で農家数も激減する中、近年就農した4人の若者たちに刺激を受け、「家業を絶やさないように」と退職した夫と力を合わせて、毎日の作業に精を出しています。

ちょうど、新川から新しいブドウ園地に移って足掛け25年になります。老木から若木への移行の時期であり、収量は減少。原油高の影響もあって経営も厳しい。それに、ハウス内での高温下での作業や施肥、消毒など想像以上大変なのです。

高橋 初子(求院1)

近年は、義母の介護なども重なり、体調を崩すこともありました。元に戻るまでに1か月くらいかかるなど、体力の衰えを強く感じています。

そんな中で大きな支えとなったのが、地域の皆さんとの交流です。

誘われて、斐川の農業女性の集まり「アグリヒロイン」に参加しました。稲作や畜産、野菜・花弁栽培など様々な分野で農作業をしながら、家庭でも頑張っている多くの女性たちと出会い、とても大きな力をいただきました。出西コミセンで行われているフォーカダンス教室や健康体操の教室も楽しみにして出掛けています。

気が付けば「アラ70(古希)」です。健康寿命を意識しながら、美味しいデラウェアをより多くの消費者の皆さんに届けるよう、引き続き頑張っていきたいと思っています。



農家に買ったデラウェア(高橋(左)と栽培農家の野村千穂子(求院3))

※アグリヒロイン製作のカレンダーへ

専門部の活動に参加してみませんか?

出西コミュニティセンターでは5つの専門部を設置し、事業を実施しています。イベントの参加はもちろんですが、専門部の活動に協力していただく部員を募集します。参加してみたい方は、事務局までご連絡ください。(電話72-9204まで)

総務部

・歴史講座

・広報誌発行

・HPの作成 など

青少年部

・各種体験教室

・青少年伝統継承活動

・子育てサロン など

文化部

・文化祭

・コンサート

・文化探訪 など

まちづくり交流部

・環境美化

・ライフデザイン講座

・ふれあいサロン など

防災セミナー

・防災セミナー

・人材同和教育

健康スポーツ部

・健康ウォーク

・健康まつり

・はつらつ体操教室

・ニューススポーツにチャレンジ! など